

コールセンターからの小さなよみもの



2019年9月30日

Vol
128

株が上がった9月、皆どうした？ でも考えるべきは、“THINK BIG”

大きな下落を見た8月から一転、9月の世界の株式市場は大きく上昇しました。身近な日経平均株価で見ると、8月の3.8%の下落に対して、9月は約6%*の大幅な上昇です。

そんな中、日々お客様の電話を受けていると、正直「またか...」と少しガッカリしてしまいます。正確な数値は来月にならないと分かりませんが、例えば身近な日経平均のインデックスファンドは、これまで同様、株価の上昇に合わせるようにして解約が増えている気がしています。

日々売買できる投資信託の「使い方」に、日興アセットが注文を付けるのはおかしいかもしれません。それでもやはりお伝えしたいのは、「THINK BIG」—大きく考えませんか？ 大きく構えませんか？—という考え方です。



*2019/9/27時点

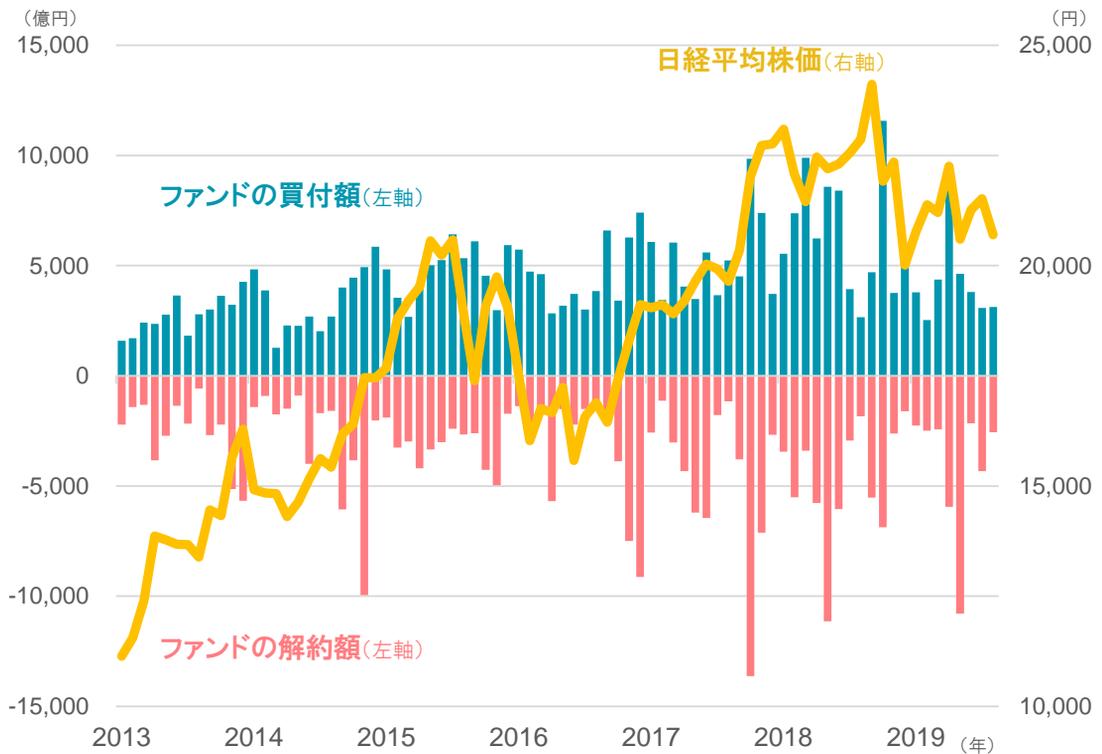


売りたいくなる心理

下のグラフは、日本全体の日経平均インデックスファンドの売買動向です。上に伸びている棒線が買付金額で、下が解約金額です。常に上と下がありうるグラフですが、一緒に描かれた線グラフの日経平均株価の動きと合わせて見てみると、株価の上昇が大きい時には、決まって解約も多くなる傾向が確認できます。おそらく今月9月は、大きな解約超の1ヵ月になる“予感”がします。

日本の日経平均連動型インデックスファンドの買付・解約と日経平均株価の動き

期間：2013年1月～2019年8月、月次



※ETFを除く公募投資信託
 一般社団法人投資信託協会のデータおよび信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。
 データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。



上昇して含み益が出るといわゆる「利益確定」をしたくなるのは、投資心理としては自然なことで、責められるべきことではありません。買値に戻った時に(やれやれ...とばかり)売りたいくなる「ヤレヤレの売り」という投資の言葉があるほどです。

THINK BIG –大きく考える。大きく構える。

しかし同時に気付きたいのは、このグラフの起点と今とを比べると株価が約2倍になっていること。多くの人がこの間、買ったり売ったり(また買ったり)している中、この期間の最初から最後までどっしり持ち続けた人は、資産を倍にしているのです。

場合によっては発生する買付時の申込手数料を払いながら頻繁に売買することと比較して、大きく考え、大きく構え、どっしりと市場に居続ける投資スタンス—それが日興アセットがお伝えしたい「THINK BIG」という考え方です。

「一旦売却しないと下がるかもしれないじゃないか！」という声も聞こえてきそうです。しかし、長期的に上がり続けると大きく構えられない投資対象には、もともと投資すべきではありません。もし、機敏な売買で利益を積み重ねたり、売買自体を楽しんだりするのであれば、そもそも1日に一度しか値段(基準価額)が決まらない投資信託は不向きで、個別株式や上場投信(ETF)に分があります。

値動きが大きい最近のマーケット。だからこそ一度、こうした原点に立ち返り、自らのスタンスについて考えてみてはいかがでしょうか？

nikko am

2 コールセンター
0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

